

未承認・適応外医薬品等の情報公開文書

医療の内容	カテコールアミン注射製剤の併用
対象となる方	医師がカテコールアミン製剤の併用を必要と判断した患者
承認日	2026年 7月 1日
対象期間	承認後から永続的に使用
目的・意義	重症低血圧、心原性ショックといった、アナフィラキシーショックなど血圧が著しく低下し生命の危機に瀕する状態では、循環動態を維持するために、カテコールアミン製剤という薬を使用することがあります。カテコールアミン製剤には、ノルアドレナリン、ドパミン、ドブタミン、アドレナリン、イソプレナリン、エフェドリンなどがあります。これらの薬剤は、血管を収縮させたり、心臓の収縮力を高めたりすることで、血圧を上昇させ、血液循環を改善する効果があります。しかし、ノルアドレナリンの添付文書（薬の説明書）には「他のカテコールアミン製剤と併用禁忌」と記載されています。これは、ノルアドレナリンと他のカテコールアミン製剤を同時に使用すると、過剰な血圧上昇や不整脈などの副作用が起こる可能性があるためです。 ただし、海外の添付文書や日本の複数の診療ガイドラインには、患者の状態を十分に把握した上で、カテコールアミン製剤を併用することが認められています。これは、重症低血圧や心原性ショックの患者にとって、循環動態を維持するために、複数のカテコールアミン製剤を併用することが有効な場合があるためです。当院では、上記のような状況を踏まえ、医師がカテコールアミン製剤の併用が必要と判断した場合は、患者の状態を厳重にモニタリングしながら、慎重に併用投与を行います。
診療科	全診療科
使用場所	原則、ICU・CCU、HCU、救急病棟、手術室、救命救急センター
使用条件	投与中は心電図モニターを装着し、不整脈や心停止等の有害事象の兆候を早期発見、対応ができる体制で実施します。
医療行為に伴う危険性	カテコールアミン製剤を併用することで血圧上昇、頻脈、不整脈の誘発、組織血流の低下などの副作用を生じる可能性があります。循環動態を厳重に観察し、必要時は薬剤の減量や中止等で対応します。
本診療の任意性と撤回の自由について	この診療行為は、患者さん御自身の自由意思に基づくものです。この診療行為を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。不明な点や心配な点がありましたら、遠慮なくお問い合わせください。
問い合わせ先	平塚市民病院 医事課 診療報酬担当 0463-32-0015（内線：8144）